



関町小通信

平成27年7月1日
練馬区立関町小学校
学校だより 7月号

グローバル社会に生きるために一番必要なものは

校長 福岡 勤

6月9日(火)から3泊4日、6年生は軽井沢移動教室に行ってまいりました。児童121名、引率者11名(外部指導員・看護師を含む)の総勢132名にて同じ屋根の下で寝食を共にし、総時間82時間の生活をする中で、文字どおり「教室を移動」して貴重な体験や学習をしてまいりました。

5年生のときに2泊3日の移動教室を体験している児童ですので、「移動教室」というものはどんな様相なのかは肌で感じており、宿舎での過ごし方や訪問先での行動等、おおむね事は順調に進みました。しかし、なにぶんにも大所帯のため、御一緒した小規模の学校と比べてしまうと小回りはききません。そのハンデを引率者の的確な指導や支援で、なんとか乗り切っていました。担任を筆頭とする教職員の妥協を許さない熱意と生活指導力には、自校の教員ながら校長として胸を張ることができます。

さて、その移動教室の2日目には、右上の写真にもあるような絶好の天気の下、標高2228mの東麓ノ登山(ひがしかごのとやま)に登りました。頂上にはどこからからも見通せる眺望を有する山の証である一等三角点がありますので、360°のすばらしいパノラマの風景を堪能してきました。また、偶然にも隣の峰の斜面にいたニホンカモシカを児童数名とともに目撃したのは幸運でした(本校HPの「できごと」に掲載してありますので、ぜひ御覧ください)。

ここからが、今月号の本題になります。登山後は、池の平湿原の中にある草地の休憩スペースにての昼食です。いたるところから元気のよい「いただきまます！」の音が聞こえてきました。しかし、少しすると、複数の女子グループの子供がお弁当容器を



片手に、シートの上に立って食べている姿が目に入りました。やれやれと思い、話をしに行くと、「だって、校長先生、地面近くは虫が多くいるので、いやなんです！」との返答。確かに私が食事をしている場所にも小さな虫が沢山飛び交っていましたが一。

そのとき、「現在のグローバル化時代を生きる四つの力」の話を思い出しました。その話を要約すると次のような内容になります。「これからのグローバル社会を生きるには、次の四つの力が重要になる。その力とは、①『体力』: 先進国の世界が活躍の場になるとは限らないため。②『好奇心』: 常に新しいものを学ぼうとする姿勢が必要不可欠なため。③『疑問力』: なぜ? どうして? と、常に問い続けられることが大切なため。④『自分・自国理解力』: 自分や日本の伝統・文化等を知らねば、他人・他国理解はできないため。その四つの力の中でなんとと言っても重要なのは、①の(広い意味での)『体力』である。」

「発展途上国に行ったら行ったで、なんとかなるよ。」と反論されそうですが、関町小の子供たちには、虫がいても(食材になることも)、トイレがなくとも、元気にたくましく生活できる『体力』を身に付けて世界を駆け巡ってもらわなくてはなりません。